

けんぽく

第9号[平成26年8月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

平成26年8月29日発行

「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆桑折町のももが皇室へ献上されました！

平成26年8月6日(水)に、JA伊達みらい桑折総合支店において、皇室へ献上するももの選果式が執り行われました。

県は、平成6年から継続して桑折町産のももを皇室へ献上しており、今年で21年目となります。

会場には、この日の朝、収穫したもも約22万個の中から、光センサー選果機によって選果されたもも480個が準備され、福島県農業総合センター果樹研究所の指導の下、

安彦慶一JA伊達みらい代表理事組合長、高橋宣博桑折町長、桑折町のキャンペーンクルー「スマイルピーチ」が、皇室へ献上するもも180個を選びました。

今年のももはやや小ぶり傾向にありますが、7月からの好天で、例年よりも甘さや色づきがよいとのこと。

参加者は、色や形が良いももを慎重に選び、傷が付かないようにネットをかけ、丁寧に箱詰めをしました。

この日選果されたももは、8月7日に皇室へ献上されました。

(農業振興普及部)



桑折町町長(右側)達による選果の様子



桑折町のイメージキャラクター「ホタピー」

◆原木しいたけ(施設栽培)の出荷制限が解除されました！

平成26年7月11日(木)に、伊達市の一部の原木しいたけ(施設栽培)について、国の出荷制限が解除されました。出荷制限解除が認められた生産者は、斎藤憲一さん、大橋茂美さん、牧野善治さんの3名です。

3名は、指標値(50Bq/kg)以下の原木を使用し、「福島県安心きのこ栽培マニュアル」に基づく放射性物質対策を行った結果、食品の基準値(100Bq/kg)を下回るしいたけの安定的な生産が可能となりました。

震災前は、野外で本伏せ等を行っていましたが、原発事故の影響により、野外で本伏せを行った場合、周辺の放射性物質による二次的汚染を受ける可能性があるため、施設内での栽培に取り組んでいます。

具体的には、秋田県原木を使用し、新設したハウス内で、植菌から仮伏せ、本伏せ、発生、休養までの一連の栽培作業を、散水や通気に気を配りながら行っています。

今後、10月下旬から本格的に出荷が再開されます。出荷に当たっては、パック等に原産地(市町村)、生産者名、栽培方法の情報が表示されます。

皆さま、伊達市産の香りのよい原木しいたけをぜひ味わってみてください。

(森林林業部)



原木しいたけの試験栽培



ハウス内での本伏せ

◆「おいしい ふくしま いただきます！」 キャンペーン開催中！！

県北農林事務所では、県産農林水産物の美味しさや安全性を県民の皆さまに再認識していただき、県内消費の拡大、地産地消の推進を図るため、地域の特性をいかした消費拡大キャンペーンを展開しています。

去る8月23日（土）に、第2回目のキャンペーンを福島市公設地方卸売市場の開場記念イベントである「市場の土曜感謝市」の一角をお借りして実施しました。

当日は、気温30度を超える炎天下にもかかわらず、多くのお客様においでいただき盛況となりました。

キャンペーンでは、青果物（もも、ぶどう、なし、きゅうり）や水産物（ミズダコ、活ホッキ、活アワビ）等の試食品の提供を行いました。

ミスピーチキャンペーンクルーから配られたもも等の試食品を食べたお客様からは「とても、おいしい！」との声が多く聞かれました。

今回は、新ふくしま農業協同組合やアグリビジネスネットワークあだちに御協力いただき、第3回、第4回のキャンペーンを実施します。

直売所や道の駅等において、県産米のオリジナル品種である「天のつぶ」や県北地方の安全で美味しい旬の青果物等の試食会を開催します。

開催当日はJA新ふくプレゼンレディやうつくしまライシーホワイトにもお手伝いいただく予定です。皆さまぜひおいでください。

（企画部）



青果物の試食会場、賑わってます！



水産物の試食会場も賑わいました！

「おいしい ふくしま いただきます！」 第3回キャンペーン

開催日時：平成26年9月27日（土）9：00～15：00
場 所：新ふくしま農業協同組合直売所「こころ」
吾妻店、矢野目店、黒岩店の3店舗
協力団体：新ふくしま農業協同組合

「おいしい ふくしま いただきます！」 第4回キャンペーン

開催日時：平成26年11月9日（土）10：00～15：00
場 所：道の駅「安達」上り線側 大型テント
協力団体：アグリビジネス・ネットワークあだち

◆明日の明るい園芸産地を語る懇談会開催！

平成26年7月4日（金）に、「明日の明るい園芸産地を語る懇談会」が伊達市保原町のみらいホール保原で開催されました。

この懇談会は、伊達農業普及所管内の指導農業士と青年農業士で組織する伊達地方農業士会が、例年、地域農業の発展とそれぞれの経営発展を図るため、

その都度テーマを決めて開催してきましたが、本年は農業青年クラブDATECが主催となり会員も交え、伊達市産業部長、桑折町副町長、国見町副町長、JA伊達みらい代表理事専務等をお招きしての開催となりました。

懇談のテーマは、「青年の就農について考える～農村における婚活や農地集積などの課題を語ろう～」でした。特に婚活については、市町やJAから婚活関係事業の紹介があり、農業士からは「独身時代は、週2～3回は同世代の男女で交流を深めていた」などの自身の経験を踏まえたアドバイスとともに、「DATEC自らがイベントを企画してはどうか」との提案もありました。DATEC会員からは、良き人生のパートナーとの出会いに向けた抱負を語る場面も見られました。

懇談会終了後には、杯を酌み交わしながらの意見交流会が開催され、さらに和気あいあいとした雰囲気の中で、役職や世代を超えての交流が図られ、盛会の内に閉会を迎えました。

（伊達農業普及所）



懇談会の様子

◆福島大学生と連携した農業フィールドワークが開催されました！

平成26年7月13日（日）に、二本松市東和地区で有機農業を実践する関元弘氏（ななくさ農園代表）と仲里忍氏（燦々農園代表）のほ場において、福島大学の学生6名を招いた農業フィールドワークが開催されました。

県では化学肥料、農薬の使用を低減させ、環境への負荷が少ない、安全・安心な農産物の生産を目指す「環境と共生する農業」の取組を推進しています。

本年は、その活動の一環で学生と連携し、県独自の「環境と共生する農業推進PRマーク」のポスターの作成を進めています。

フィールドワークでは、PRポスターを作成する学生に「環境と共生する農業」へのイメージを膨らませてもらうために、なぜ有機農業に取り組むのかという生産者の思いに触れ、きゅうりなどの季節野菜の収穫体験を通じた体感型の活動を行いました。

最初は慣れないほ場での作業のため、ややおとなしい様子であった学生の皆さんも、有機農産物を食材とした昼食会では、採りたて野菜の美味しさを存分に味わい、生産者とも積極的な交流をしていました。

この経験をいかし、有機農業など「環境と共生する農業」に楽しみながら取り組む生産者の思いを反映したポスターの制作が、期待されます。

（安達農業普及所）



フィールドワークに参加した学生と有機農業生産者の皆さん



サヤインゲンほ場において説明するななくさ農園代表関氏と学生の皆さん



◆福島市農業後継者連絡協議会がいわきでももの直売活動を開催！

平成26年7月20日（日）に、福島市農業後継者連絡協議会主催のももの直売活動が、いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」で実施されました。

同協議会は、福島地域の6つの単位クラブから構成され、現在81名の後継者が所属しており、それぞれ支部ごとに果樹の共同防除や栽培技術の研鑽を積んでいます。ももの直売活動は、福島地域で生産されたももを広くPRすることを目的として、

平成17年度から連絡協議会の恒例行事として、毎年この時期に実施しています。

当日は、同協議会の会員15名とミスピーチキャンペーンクルー2名で、旬を迎えた「恋みらい」と「暁星」の2品種の販売を実施しました。

もも300箱（1.5kg入り）の販売を行い、14時には完売しました。地元の常連客や、遠くは千葉県の方など、県内外多くの方に福島市産のももをお届けすることができました。

今後も、「いわき・ら・ら・ミュウ」でもも、なしの直売、新潟県魚沼市でのなし、りんごの直売を予定しています。多くの消費者と販売を通じてふれあい、様々な意見を受けることで、連絡協議会の直売活動が更に活発になり、消費者に喜ばれる高品質の果樹が生産されることを期待します。

（農業振興普及部）



大勢のお客さんが訪れました



ももの試食をする親子連れ



◆平成 26 年産稲WCS収穫調整作業が始まる！

平成 26 年産の稲WCS（ホールクロップサイレージ）の収穫調整作業開始式が、平成 26 年 8 月 25 日（月）に、稲WCS生産組合及びJA伊達みらい主催により、伊達市保原町柱田の水田で開催されました。

伊達市における稲WCSの取組は、生産者が稲WCS生産組合を結成して平成 20 年から行われており、JA伊達みらいの子会社である「みらいアグリサービス（株）」が収穫調整作業を受託しています。

今年の栽培面積は 30.5ha で、その全量が主に県北地方の酪農家の飼料として契約販売されます。平成 25 年度からは、経営所得安定対策の耕畜連携助成を活用して、供給先の酪農家が生産した堆肥が稲WCS生産水田 8ha に還元されており、平成 26 年度は 11ha を計画しています。収穫の作業は 9 月 18 日までの予定です。

栽培品種は全て「コシヒカリ」で、栽培方法は通常の米生産とほとんど変わりませんが、茎、葉、籾の全てを飼料として使用するため、農薬の使用制限が厳しくなっています。地際で刈り取った稲は、専用機械でロール状にまとめて、表面をすきまなくポリエチレンフィルムで梱包します。この時、稲には発酵促進剤が噴霧され、保存している間に内部で乳酸発酵が進んで牛が食べやすい飼料になります。

また、収穫された稲WCSの放射性物質濃度は、県が緊急時環境放射線モニタリングとして抽出検査を行うほか、JAや県酪農業協同組合が筆ごとにNaIシンチレーション検査機で検査するなどして、製品の安全性を確認した上で納品されます。

今後の更なる取組拡大が期待されます。



稲WCS収穫調整作業の様子

(伊達農業普及所)



◆福島大学で高校生のための「6次産業化」学習講座を開催！

福島大学の地域ブランド戦略研究所(所長:西川和明教授)では、8月4日(月)、7日(木)、8日(金)の3日間のカリキュラムで、農業や食品分野で働くことを目指す県内高校生向けに6次産業化を学ぶ「地域ブランドクリエイター養成講座」を開催し、県内4校(福島明成・安達東・会津農林・岩瀬農業)から50名の参加がありました。

法制度や財務管理の講義、食品加工の現場視察等を経て、最終日には各グループに分かれて、それぞれ「商業」・「観光」・「特産品」・「高齢者」をテーマにビジネスプランを発表して、会場のオブザーバーの皆さんから点数投票による評価を受けました。

高校生ならではの若く斬新な感性に基づいた素晴らしいアイデアの数々でしたが、集計の結果、第1位には、高齢者に活気を取り戻すことを目的に、参加しやすい料理教室や昔遊びの伝承などを実施する事業提案を行ったグループの「高齢者を元気にする6次産業～知恵袋を発信しよう～」が選ばれました。

第2位は、アレルギーのない「福島県産、安心安全なもちもちパンケーキ」、第3位は、修学旅行先に福島県が選ばれるための取組「きてみっぺ！うつくしま!!」となり、上位の得票を得たグループには協賛企業から、県産農産物や加工品のプレゼントがありました。

なお、この講座の修了生には、国が認定している「食の6次産業化プロデューサー・レベル2」の認定資格が授与される予定です。

(企画部)



福島大学経済経営学類
西川教授の挨拶



各グループでまとめたビジネスプランの
発表の様子

伊達果実農業協同組合

「福島産の美味しいくだもの」を自信持って発信しよう！

【組織紹介】

当伊達果実農協は、くだもの専門農協として組合員との絆を強く持ちながら、新たな魅力ある果樹産業への取組を行っています。

当農協は伊達郡（桑折町・国見町）、伊達市（梁川町・保原町）、福島市（飯坂町）を主な事業管轄区域として、正組合員数 635 名、役職員数 24 名、各生産部会（もも・りんご・あんぽ柿・桜桃・ぶどう）、協力団体（研究会・婦人会・方部委員会）から構成されています（平成 26 年 2 月 28 日現在）。

【活動内容】

当農協は組合員個々との密着型くだもの専門農協組織作りを目指し、販売事業・購買事業・営農指導事業を柱として、組合員の生産意欲と所得向上に努力しております。

【特にPRしたいこと】

安全・安心で本当に美味しくでき上がった「もも」をより多くのお客様に食べていただけるように、地元桑折町・商工会・観光協会等とタイアップして全国各地で開催されるイベント事業に出店しています。イベントにおける、お客様との対面販売を主体とした「福島のももPR販売活動」を通して、復興に向けた風評被害払拭活動を展開しております。

平成 26 年 8 月 2 日（土）に、毎年恒例行事として定着した桑折町との姉妹町、東京都荒川区汐入町の荒川区民祭に出店し、大盛況の中、福島県桑折町伊達果実のももは、すぐに完売になりました。

毎年、福島産の美味しいももを待っていただいている方々の気持ちに感謝しながら、1人でも多くの福島ファンを増やしてまいりたいと考えております。

今後も、福島産のくだものが、安全・安心で美味しいことを、消費者に直に発信してまいります。



荒川区汐入まつり開会宣言



販売用あかつき準備完了



美味しいももに長蛇の列



桑折町スマイルピーチ

インターンシップ生のコラム

◆なしの糖度実験を体験！

こんにちは。私は平成26年8月18日から29日まで県北農林事務所にインターンシップさせていただきました浅川と申します。

私たちはインターンシップ中に、農業総合センター果樹研究所に行ってきました。果樹研究所では、実際に果樹園を見学させていただきながら、果樹の新品種の育成や、安全・安心な県の農林水産物の安定供給の取組についてのお話を聞きました。また、実際に食味しながら、なしの糖度を計る貴重な体験をさせていただきました。糖度の違うなしを食べ比べてみると味の違いが分かり、立派な品種になるのは長い時間がかかることを実感しました。

このインターンシップの経験をいかし、将来ふくしまの農業に少しでも携わる仕事がしたいと思いました。

また、福島県の農業の現状を、友達や周りの人にも伝えていきたいと思っています。

(浅川)



上：なしの糖度実験の様子(中央が私。左は栗田さん)

下：所長からのお話を伺う様子(左が私。右は栗田さん)

現役の大学生が県北農林事務所へ職場体験に来てくれました！



インターンシップ生の浅川です！

同じく栗田です。コラムを書きました！

◆米の全量全袋検査の見学！

平成26年8月18日から29日まで、県北農林事務所にてインターンシップをさせていただきました栗田と申します。

実習期間中には事務所内での業務体験だけではなく、フィールドワークとして様々な場所を訪れることができました。福島県の農業の中核である福島県農業総合センターや、道の駅、直売所などで、安全・安心な農業の取組を見てきました。

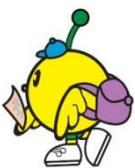
特に印象深かったのは米の全量全袋検査の事前準備に付き添わせていただいたことです。ふくしまの米の安全のため、これほどに尽力されているのだと、改めて知ることができました。

2週間の実習を通じて、何気なく手にしていた農産物は、熱意を持った多くの方々による努力の結晶だと感じました。今後この経験を様々な人に伝え、ふくしまの農業新生にわずかでも貢献したいです。

(栗田)



左：視察した米の全量全袋検査機器



皆様からの御意見・御要望など 様々な情報をお待ちしております。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課
電話 024-535-0382
FAX 024-536-9590
電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

